

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 熊本県・熊本市 】

1 実践テーマ	【 V 】
2 実施対象者	長嶺小学校 1年児童（170人） 2年児童（161人） 計331人
3 展開の形式	（1）学校における活動 ① 教科名（ 体 育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） （2）地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目 標 (ねらい)	オリンピックとの直接交流により、走る楽しさを体感したりスポーツへの関心を高めたりするとともに、オリンピック・パラリンピック等に関する講話を聴き、運動促進による心と体の健康づくりを行う。
5 取組内容	1. オリンピアン（川上優子さん）の紹介 2. 講演「失敗は成功の秘訣のもと」 3. 陸上教室（雨のため体育館で実施） （1）準備運動 （2）リレー ～速く走るコツを学ぼう～ 4. 給食交流 5. 学びの振り返り・交流 体育授業で実践（事後指導）
6 主な成果	○速く走るコツを学び、走る運動に興味をもったり、自分のものにしようと意欲を高めたりする児童が増えた。 ○オリンピックとの直接交流は、子どもたちの大きな喜びになった。 ○「オリンピックを見てみたい」「オリンピックに出たい」という感想が多かった。オリンピックへの関心が高まったり、夢を膨らませたりする児童の姿が見られた。

7実践において工夫した点 (事業の特色)	・オリンピック・パラリンピック教育推進校として、児童がスポーツの楽しさを感じたり、オリンピック・パラリンピックへの関心を高めたりできるよう、この取組を実践した。 ・児童数が1000人を越えるため、低・中・高学年に分けて継続した講演や交流を予定している。今回は低学年対象に話をさせていただいた。学年を分けることで、発達段階に合った内容を実施できる。
8主な課題等	・スクリーンの文字が漢字だったので、低学年児童には読むことが難しかった。ひらがな表記、または、ルビがあると分かりやすい。 ・4校時実施の場合、遅くとも授業終了の10分前には全てが終了するように進行する。給食の準備等が遅れてしまうため。(今回は最後の記念撮影終了が5分前になり、全ての終了がぎりぎりになってしまった。) ・実技内容について、事前に大まかに知らせていただけるとありがたい。児童によっては、見通しがあることで安心して参加できるため。
9来年度以降の実施予定	・次年度も、地元のオリンピックとの交流を継続し、2020年東京オリンピックに向けて主体的にかかわろうとする児童の育成を目指す。